

【地方上級・国家一般職対策】

「本試験を勝ち抜くための模試活用法」

担当：TAC 水道橋校担任 佐川 誠

I 模試の基本三原則

- ① 模試で経験値を高めよ！
- ② 模試の後には2回復習せよ！
- ③ 模試を本試験に向けて位置づけよ！

① 模試で経験値を高めよ！

⇒本試験で失敗しないために自分が犯しやすいミスをあぶりだす

ex.数的処理で解けもしない問題にこだわって易しい時間を解く時間をなくした。

解いていく順番を間違えた or 時間配分を間違えた。

集中力を失いミスを連発した…などなど。

- * 失敗しても構わない最後のチャンス！この時期の「最後の失敗」を通して自分の犯しやすいミスをあぶり出し、その再発防止策を講じよう。点数に必要以上にこだわらないこと。

② 模試の後には2回復習せよ！

⇒模試終了直後（まだ熱い時期）の復習

…本来であれば解ける、解けたはずの問題をピックアップして復習する。

⇒結果受け取り後（少し冷ました後）の復習

…自分が間違えた問題のうち正答率の高いものにつき自分は解けないものかを検証する。

- * ホットなうちに一度、冷静になってから客観的にもう一度、合計二度の復習で得点アップを目指そう。

③ 本試験に向けて模試を位置づけせよ！

⇒合格までのスケジュールを立ててその中に模試を位置づけする

- * 模試を自己目的化しないこと！ 模試はあくまで模試！模試でいい点を取ることが目的（ゴール）ではなく、本番で合格に必要な点を取るための格好の材料収集プロセスと心得よう。詳しくは次項。

II 模試の位置づけ

～達成度にあわせた模試の位置づけ～

A: 平成 24 年内に法律・経済が一通り終わった人／再受験の人

チャレンジ模試

- ⇒ 受験生内部における自分の位置づけを把握する
- ⇒ 法律・経済でメンテナンスの必要な部分の把握
- ⇒ 記憶系科目(政治系・教養の知識科目)の勉強法がうまく行っているのかをチェック
↑ 暗記開始時期が遅め<1月>だった人

再受験の人

- ⇒ 昨年できなかった問題が守備範囲に入るようになっているかチェック

公開模試

- ⇒ 志望先における自分の相対的位置づけを把握する
- ⇒ 記憶系科目のメンテナンスの必要な部分の把握

B: 平成 24 年 1 月末までに法律・経済が一通り終わった人

チャレンジ模試

- ⇒ 数的処理・法律・経済それぞれの受験生内部における位置づけを把握する
- ⇒ 正答率の高い問題を正解できたかどうかチェック
- ⇒ 記憶系科目はこの段階までに自分がやったところが解けているのかをチェック

公開模試

- ⇒ 法律・経済でメンテナンスの必要な部分の把握
- ⇒ 記憶系科目(政治系・教養の知識科目)の勉強法がうまく行っているのかをチェック
↑ 暗記開始時期が遅め<1月以降>だった人

C: 平成 24 年 1 月末段階で法律・経済の学習がまだ一通り終わっていない人

チャレンジ模試

⇒ 法律・経済で自分が終わらせた科目の達成度をチェックする

＊ 自分なりの勉強法が確立できているかどうかをチェックする

☞ 記憶系科目はできなくて当然と考えておいてよい。

公開模試

⇒ 法律・経済・数的処理の受験生内部における位置づけを把握する

⇒ 正答率の高い問題を正解しているかどうかチェック

⇒ 記憶系科目は自分がこの段階までにやったところが解けているのかだけチェック

注意！ ×模試にあわせて付け焼刃でその科目だけを勉強する

☞ これが冒頭の基本三原則の③「模試を自己目的化しない」の意味！

経過段階での力を測定するつもりで立ち向かえばよい。

できなかった問題や論点については理解すべき事項なのか、暗記すべき事項なのかを吟味の上で勉強すべきテーマとして整理しておこう。

模試は合格に至るプロセスを補強してくれる一つの、でもすこぶる重要な機会です。単に点数や判定に一喜一憂するのではなく、本セミナーでご紹介したスタンスを参考にその有効活用を図り、本試験突破のための材料として大いに役立てて下さい。

健闘をお祈りしています！

佐川